

## 障がい者の受講状況

事業開始以前において、1シーズンでチェアスキーを使用してスノースポーツを楽しむ方々の実績はのべ50~80名程度、より軽度の障がい者加えると400名程度弱と想定されており、今回の基盤整備により受け入れの窓口を広げ、対応可能な教師の増加、認定の向上を進めることで、のべ400~700人の受け入れを直近の目標としておりました。

そしてこの取り組みが定着して、各スクールが容易に活動できる態勢になった状況で、全受講者数の中に5%程度の障がい者が来ていただけるようすることを将来的な目標に設定しておりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響及び、対策として「緊急事態宣言」、「まん延防止等重点措置」の各地での複数回の発令による、行動の自粛によりスノースポーツ業界全体として、集客の困難な期間が続きました。

殊に障がいをお持ちの方々へは”接触を伴う対応”を余儀なくされるため、感染防止対策の観点から行動を控える方が多く、また受け入れ側も積極的な誘客を行えなかった経緯がありました。

各スクールが基本的に問い合わせを受けていますので、問い合わせ段階のニーズに関する数字については協会で正確につかめませんが、今シーズン後半には行動の規制が徐々に緩和されてきたものの、現時点で当初の目標への達成率について、厳しいものであると予想されます。感染症対策の規制緩和に伴う旅行客の増加、学校行事等の実施が通常時に近づいている点を鑑みまして、来期以降、当初の目標数が到達可能な数字であると考えております。

